

第681回番組審議会報告

2023年9月5日開催

■出席委員

佐藤卓己委員長、栗栖義臣副委員長、川瀬慈委員、木戸哲委員、
小島幸保委員、増山実委員、安田真奈委員

■毎日放送出席者

虫明社長、宮田副社長、高山常務、酒井取締役、北野取締役、中野取締役、
田淵総合編成局長、羽根総合編成部長、山本総合編成部エキスパート、
奥田報道情報局長、森岡番組センターエキスパート、下濱番組センター主事、
柴田コンプライアンス局長、中西番組審議会事務局長

◆議事の概要

番組イベント連動企画

「やってみたかってん！！4年ぶりの夏」について

【概要】

コロナもようやく明けて4年ぶりのいつもの夏が戻った。MBSではこの間に
できなかった番組企画やイベントを2週間にわたって全社的なキャンペーンと
して展開。よんチャンTVでは「アナウンサーになりたい10歳双子を応援」「M
ー1を目指す盲目の少年にミルクボーイが漫才指導」「チュート徳井とキャンプ
デビューしたい」「山中アナのインド中継」「新しい学校のリーダーズの生ライブ」
など盛りだくさんでお届けします。

【各委員の主な意見は次の通り】

- * 矢野元監督の野球少年へのサプライズがとても素敵だと思った。「叱りつけ
るのではなく、伸びしろを認めて力を引き出すやり方を大人にこそ伝えたい」と話していたのが印象的だった。
- * 定点観測「お化け屋敷」が非常に面白かった。子どもたちの無邪気な表情、
怖がったり笑ったりする表情がとても日常感が出ていてよかったと思う。
- * お母さんと漫才に挑戦した男の子は言葉がとてもポジティブで、周りのお友
達も出てきて、彼の日常が伝わってくる。今年は残念だったが、お母さんの
キャラも含めてとても印象に残ったので、引き続き取り上げてほしい。

- *M1に出たい親子の漫才ではミルクボーイの内海さんがすごく的確なアドバイスをしていた。そのような場面をもっと前面に出したら、さらに見ごたえのあるものになったと思う。
- *漫才の親子の企画は、障害のある人に対する配慮は必要である一方で漫才としての芸の基準がある。いろいろなことを考えさせられる映像はいい映像なんだろうと感じた。
- *イベント会場の中継でテレビカメラの前で元気に笑っている子どもの姿を見られたのはすごく幸せな気分になった。
- *「やってみたかってん！！」というテーマ自体がすごくハードルの低いテーマ設定で、やってみたということ、もう既にゴールになっているのではないか。
- *キャンペーン全体で言うと、現在テレビの地盤沈下がすごく進んでいて、一つの番組、一つの局のキャンペーンをやったところで追いつかないところまで来ていると思う。もっとテレビ業界全体が活性化するようなテーマ立てや企画が必要ではないか。
- *アナウンサーにチャレンジした双子のきょうだいは緊張していて、頭の中で覚えていることで精一杯みたいな感じだった。ちょっとやらされている感を感じて、後味がもう少し爽快なものにしてほしかった。
- *双子がアナウンサーに挑戦する回は、むしろ非常に真っ白になって男の子のほうと言えなくなっているような素人っぽさが非常にいいと思った。
- *インド中継はインドの奥深さを知ることができてすごく興味深かった。人力車が人が多くてなかなか進めなかった中継はライブ感を感じた。
- *インド中継で、翻訳と字幕が大雑把過ぎると思った。夢や目的に関してかなり具体的に表明している子たちの思いを、丁寧にすくい取ってあげる必要があると思った。
- *インド中継で高級アパートに住んでいる夫婦と子どもの一つの家庭が紹介された時に、夫の名前は出てくるが、妻は「奥さん」というだけで名前が出てこない。今のジェンダーの議論を踏まえるなら、夫も妻もバランスよく表記するべきではないかと思った。

【番組制作者側の説明、質問への回答】

- *「やってみたかってん！！」というゴール設定が曖昧なところがあったと感じた。
- *漫才に挑戦する親子の企画は、手放しで褒めるのではなく、もっと漫才がうまくなるように褒めたらいいという意見はその通りだと思う。
- *インド中継で本人たちが夢を語っているところでしっかり正確に字幕ができ

ていないということについては、番組体制の問題もあると思う。これからの番組の体制づくりに生かしていきたい。

*ジェンダーに関する問題については、番組スタッフは男性が多いことにも起因しているかもしれない。もっと意識して番組を作っていく必要があると強く感じた。

以 上